



クローズアップ
CLOSE UP

巧みな話芸で観客魅了

弁天通り商店街の大七茶舗で、4月23日に大七寄席が開催されました。本市出身で観光大使の三遊亭竜楽さんが、まちの活性化のため商店街と協力して実施するこの寄席はことしで5年目。満員の観客は地元出身の落語家の話芸に聞き入っていました。



市民協働の成果を発表

4月23日、市民提案型パートナーシップ事業の実施報告会を開催しました。介護予防などで実施団体と市が知恵を出し合い進めた協働の成果を発表。審査委員からは、「協働がさまざまなブレークスルー(打開や進歩)につながった」との講評がありました。



木の温もりを子どもに

前橋産スギの間伐材で、ころとん積木を制作しました。市内保育所などに配られ、子どもたちは「ころとん、ころとん」と気に入った様子。農林課の担当は「地域産木材のPRにつながれば」とコメント。今後も木材組合と連携し、地域木材利活用を推進します。

いきいき
まえばし人
樋口将俊さん・19歳
サンデンまえばしロボコン
ボランティアスタッフ
小相木町

自分らしい作品で挑んでほしい



機械製作が大好きな樋口さん。小さいころは変形したり合体したりするおもちゃに夢中だった。完成品では物足りず、工作キットを買って自分で組み立てるようになったのは小3の時。機械製作を学ぶために群馬高専に進学した。高専1年の時、選手として出場したまえばしロボコンではベスト8入り。

「相談しに来た子どもたちが自分の作ったロボットについて一生懸命話す姿を見るととてもうれしく思います」そう思うのは樋口さんのロボット作りへの姿勢が関係している。「他人のまねではなく、一人から自分で考えて作るから、面白いんです。自分が思うとおりにロボットが動いたときの感動を子どもたちに知ってもらいたい」サンデンまえばしロボコンは昨年170のチームが参加した大きな大会。その人気は、樋口さんのようなロボット作りを愛するスタッフに支えられている。

vol.01
ART STORY
広がるアーツ前橋

昨年からアーツ前橋と協働し、アーツマネジメント人材育成プログラムを実施。本年度のテーマは「アーツでまなび、アーツでつなぐ! まえばしアーツスクール計画」です。私が学生時代に出会った哲学者のR・シュタイナーは「現代はアーツの時代だ」と言っています。多様な人たちが共に暮らす社会の問題は、アーツの力でしか解決できません。アーツは多様性を基に、固定化された仕組みからはみ出す力を与えます。同時に人と人をつなぎ、個性と個性とがつながること、ここにいう確かな感覚を呼び起こします。



「まえばしをアーツなまちに」と語る群馬大教授の茂木さん

前橋を創造性豊かでアーツなまちに変えていきたい。名付けて「まえばしアーツスクール計画」。目に見える成果ばかりが大事にされる今、学校のアーツ教育を補完し、まち全体をアーツと教育によって再生しようという計画です。学校や文化施設、介護・障害者施設、芸術家などと連携しながら、アーツから遠い人をアーツで包み込んでいきます。本年度の実践講座は、実験的な教育劇づくりやまちなかの場づくり、広瀬川美術館での展覧会とワークショップの企画、鑑賞体験アプリづくりなどを実施。アーツをリストと共に学びます。



第1回は群馬大教育学部教授の茂木一司さんが、「前橋をアーツなまちに」と題して、アーツスクール計画を紹介します。

アーツ前橋
027-230-1144